

第24回札幌市自立支援協議会概要

- 1 日時 平成27年10月26日(月)18時00分～19時55分
- 2 場所 札幌市役所本庁舎12階1～3号会議室
- 3 出席者
 - ・ 加藤 法子(社会福祉法人楡の会 総合施設長、厚別区地域部会)
 - ・ 北川 聡子((福)麦の子会 総合施設長、子ども部会)
 - ・ 栗虫 宏明((有)拓真ワークス 取締役事業部長、清田区地域部会)
 - ・ 黒田 澄雄((特非)ゆいまーる 理事長、西区地域部会)
 - ・ 重泉 敏聖(就業・生活応援プラザ とねっと センター長、就労支援推進部会)
 - ・ 杉田 誠(相談室こころ ていね 管理者、相談支援部会)
 - ・ 妻倉 ゆかり(あかり家 管理者、中央区地域部会)
 - ・ 中村 直人(障害者支援施設第2よろこびの家 管理者、豊平区地域部会)
 - ・ 永井 順子(北星学園大学 社会福祉学部 准教授)
 - ・ 根本 淑恵(ほっと相談センター 相談支援業務責任者、南区地域部会)
 - ・ 橋本 泰宏((福)愛敬園 北愛館 主任、手稲区地域部会)
 - ・ 福吉 綾子(札幌市障がい者あんしん相談 専任相談員)
 - ・ 森 祥子(五稜会病院 医療相談室主任)
 - ・ 和田 文明(サポートセンターれら 所長、北区地域部会)
 - ・ 山本 彩(札幌市自閉症・発達障害支援センター 地域支援マネジャー)
 - ・ 渡邊 貢(自立生活支援センターさっぽろ 事務局、白石区地域部会)
 - ・ 佐藤 忠峰(有限会社Colors、小谷委員代理)
 - ・ 戸田 健一(障がい者相談支援センター夢民 地域づくりコーディネーター、オ
ブザーバー)
- 4 欠席委員
 - ・ 小谷 晴子(札幌アシストセンターマザー理事長、東区地域部会)
 - ・ 牧野 准子(障がい当事者講師の会 すぷりんぐ 代表)
- 5 議事概要 別紙のとおり
- 6 傍聴者 12名

<議事概要>

● 札幌市からの情報提供

- ・ 地域ぬくもりサポート事業の拡充について

○ 説明員（当該事業受託法人 姉帯職員）

2012年7月に幌西・南円山地区のモデル事業として開始。障がいのある方と関わりの経験が無い方も活動していただいている。対象、主な支援内容等は資料2のとおり。希望に応じたマッチングをして、紹介、意思確認、活動開始という流れ。あくまでボランティア活動なので、必ずやってもらうということではない。10月から3つのエリアを、3センター体制で実施することに。広報さっぽろへ掲載したことで、利用の問い合わせが増えている。

○ 北川委員

実績の件数はどのくらいか。子どもに対する支援はどうか。

○ 説明員（当該事業受託法人 姉帯職員）

多い月で60件、平均40件となっている。お子さんの送迎はサポーターの楽しみにもなっている事例もある。なお、利用登録は80名、サポーター登録は180名。

○ 森委員

障がいの種別によってマッチングの苦労や工夫はあるか。

○ 説明員（当該事業受託法人 姉帯職員）

内容が分かりにくいお手伝いの場合など、特に精神障がいのある方でヘルパーが使えない時の家事や調理のお手伝いは、調整が難しいことがある。サポーターを支える仕組みが必要なのではないかと思っている。

○ 永井会長

サポーターの保険はどうなっているか。

○ 説明員（当該事業受託法人 姉帯職員）

社会福祉協議会のボランティア保険に加入し、保険の範囲内で対応している。

○ 永井会長

有意義な事業だと思われるので、今後も発展・普及していくことが願われる。

- ・ 障害者差別解消法への取組状況について
障がい福祉課高木職員から資料3に基づき説明。
- 福吉委員
罰則規定は設けられているのか。
- 事務局（高木職員）
内閣府の説明では、「障がいのある方と関わるのが怖い」ということにならないために、罰則規定は設けられていない。
- 永井会長
障がいのある方に対する接遇に関する部分は、民間企業の方にも参考にしていただけると良いのではないかと思う。

- ・ 地域生活支援拠点整備について
障がい福祉課小野寺職員から資料4に基づき説明。
- 事務局（小野寺職員）
『さっぽろ障がい者プラン』で、平成29年度末までに1か所整備する目標になっている。協議会は、『さっぽろ障がい者プラン』の進捗管理の場でもあり、今後のご意見を頂きたい。また、まちの課題整理プロジェクトチームにおいて、住まい課題など、各課題の整理の中で、資料にある機能について、ある程度課題整理に取り組み、議論しているため、今後のご意見を頂くことになるが、今回は情報提供として説明させて頂いた。
- 永井会長
まちの課題整理プロジェクトチームでは課題の整理を行っている。整備についての準備はできているので、今後についてのご意見を仰ぎたい。

※質問なし

- 永井会長
今後のご検討をお願いしたい。

● 報告・協議事項

1. まちの課題整理プロジェクトチームの活動報告及び各課題の進捗報告

障がい福祉課小野寺職員から資料1に基づき説明。

○ 事務局（小野寺職員職員）

昨年度から課題をカテゴリ分けして取り組んでいる。今年度は「⑥重複障がいに関する課題整理に係る有期プロジェクト」が大きく進んでいる。「⑤行政の仕組み課題」も検討しており、「④移動課題」は今後調査活動を考えている。「①ヘルパーの技術向上と研修会開催」「②教育と福祉の連携に係る課題検討会」、「③市営住宅への単身入居を含む住まいの課題」は各部会にお願いしている。課題整理状況シートは資料のとおり現在73課題に取り組んでいる。

○ 妻倉委員

中央区地域部会では住まいについての検討をしている。宅地建物取引業協会が発行している一人暮らしのためのガイドブックがあり、分かりやすい内容となっているので、そのガイドブックを障がいのある方でも活用できるよう、分かりやすい版の作成をしている。絵を使ったり、文字を少なくしている。

○ 永井会長

課題の整理ができてきて、できることから取り組んでいる。ゆっくりだが着実に進めていきたい。

2. 各部会の部会運営で工夫していることや困っていることの意見交換

各部会の活動内容や部会運営で工夫していること等を資料に基づき、各部会長から報告あり。

○ 妻倉委員

補足として10月に開催された「けんこうフェスタ in ちゅうおう」に地域部会コーナーを設けて、300名程の来場があった。10月21日の定例会では、余暇活動についてもテーマとして取上げた。50名から60名の参加がある。

○ 和田委員

防災訓練において、障がい者に目が向けられていないと感じており、働きかけを行って、北区役所総務企画課が開催している防災訓練に参加。10月16日に防災を

テーマに勉強会を行った。子ども部会も活動している。11月10日に、拓北養護学校で先生のお話を聞く勉強会を予定している。

○ 佐藤氏（小谷委員代理）

防災訓練については、美香保小学校で行う旨案内があった。また、東区障害者自立支援ネットワークとの連携を行っており、自立支援ネットワークでは、今月は、事業所ナイトツアー、来月は虐待防止の勉強会を実施する。3月にはふくしまルシェを行う。

○ 渡邊委員

白石区民であればだれでも参加できるオープンカンファレンスを定期的を開催して、制度の勉強などを行っている。

○ 加藤委員

民生委員と情報共有していこうということで、シンポジウムに民生委員をお呼びしたり、講師にノビロ学園の園長に来てもらったりしている。高齢分野も部会に参加して、地域を大事にしている。課題としては、講師を呼ぶ等の活動財源がない。

○ 中村委員

区からの提案もあり、精神保健福祉連絡協議会を地域部会に吸収し、「こころ部会」として11月に立ち上げる予定。来月の定例会で正式に決まる。他には、札幌市介護支援専門員連絡協議会との連携もあり、定例会に出席している。来年度は逆に介護保険の話をしてもらいたいと思っている。「とよひら」福祉フォーラムは9回目の開催。フォーラムが講師を呼ぶだけのものになっていないかという反省から、アイマスクと車いすの体験コーナー、授産品の物販、障がいについて理解して帰ってもらえるようなパネル展示等も行った。前半は当事者3名によるトークショー、後半は松本ハウスの講演。ふだん地域部会には来てくれない人が来てくれたと思う。

○ 栗虫委員

東区を取組を参考に、検討から2年越しで地域課題の抽出を行っている。また、防災をテーマにした研修会を行ったり、区内の障がい福祉事業所のカラーマップも作製し、窓口で配布した。さらに、中央区の呼びかけに呼応し、元気さ～ち更新の状況を部会内で共有したり、地域部会員の拡大の取組や、全体会での事業所紹介等も行った。

○ 根本委員

前年度に引き続き、子ども部会で共催研修を実施。他の部会の活動はないが、部会のあり方を検討しているところであり、他区の研修などを見せてもらいながら、今後の部会について検討していきたい。

○ 黒田委員

区民向けに、困ったときの相談窓口パンフレットを作成中。今月の地域部会全体会で了承をもらって完成予定。また、11月8日にちえりあにて、地域交流会を開催予定であり、スタンプラリーのために経費のかからない景品をとということで、パチンコ店と社会福祉協議会の協力をいただいた。なお、部会内で相談支援事業所の情報交換を行っている。

○ 橋本委員

地域部会のブログを開設したが、まだお見せできる状況でない。研修会より交流会に力を入れており、「手稲をこんな街にしたい」というテーマで、ワールドカフェ方式で実施している。12月に事業所PR展を行う予定。

○ 重泉委員

工夫している点については、企業からの参加を増やしていこうとしていること。部会構成メンバーは事業所が多く、参加している企業は6社しかない。11月11日に在宅就業についての企業向け研修を開催する。福祉サービス事業所は参加できないことにしている。また、これまで部会として実施してきた研修が体系的に整理されていないため、今後、初任者（福祉経験5年未満）研修を12月に開催し、今後、レベルを変えて、継続実施していく予定である。困っていることとして、参加しない、構成員にならない事業所があり、情報共有の周知の面が欠けているので、その周知に工夫をしていきたい。

○ 杉田委員

プロジェクトチームとして、「ガイドブック改訂」「要綱改訂」の2つが動いている。ガイドブックについては、使いやすくしたいし、サービス等利用計画の記載もない。また、要綱改訂についても、要綱に盛り込むことで、現場が動きやすくなるようにしたい。すべての委託相談支援事業所がどちらかのプロジェクトに関わってもらい、自分のこととして捉えるようにしたい。個人的には、今後、解決に時間が

かかる課題に対して、中長期的な計画も必要と思っている。年度後半には相談支援事業所同士が職員を派遣し合う交換研修を実施。現在、部会に参加しているのが委託相談支援事業所のみのため、指定相談支援事業所とは、区毎に意見交換を実施して、双方向のやり取りができるようにしていこうとしている

○ 北川委員

上半期は相談支援部会にも参加してもらい、障害児相談について、部会にいる幼稚園・保育園の先生などの意見も交えて、意見交換できた。その経緯もあり、何のために相談支援を行っているのか、ソーシャルワークを全体で学んでいこうということになって、育ちの時期のソーシャルワークの研修実施を予定している。児童発達支援や相談支援事業所の協力ももらって、これって大事と思える研修をしたい。社会的養護を受ける子どもの関係者の研修会についても行うことは、子ども部会としても大事な提起であるが、横のつながりが意外とない。もなみ学園が事務局となって行っている。また、教育・福祉・医療の連携に係る課題検討会も進めている。互いに知ろうということで、機関同士の連携、インクルーシブ教育、合理的配慮を考えている。児童発達支援の研修をやってみて、公立でも小学校との引継が不十分であり、タテの連携も不十分と感じている。

○ 杉田委員

北区の総務企画課主催の防災訓練はどの区でもやっているのか。

○ 和田委員

本庁の担当者が区の防災担当者に地域部会と関わりを持つよう話がいつている。今年、新琴似南小学校で実施された防災訓練に参加をした。次年度から北区の防災訓練では、障がいのある方の支援に関する時間は多めにってもらおうよう働きかけたい。今年の防災訓練は北区が持ち回りの担当だった。連合町内会の方々だけでなく、消防や行政からも参加している。来年からはやりやすくなると思う。

○ 事務局（小坂主査）

防災訓練は、総務企画課の地域安全担当が担当しており、各区役所で毎年1回関東大震災の日に開催し、連合町内会単位で担当を輪番制にして、行っている。大規模な総合防災訓練は各区輪番制にして実施しており、来年は南区。

- 北川委員
障がい福祉課でやっているものもある。
- 事務局（小野寺職員）
白石区で実施した時は、障がい福祉課が協力している。
- 事務局（小坂主査）
車いすでの移動を試しにやったりする等、今どこの区でも要援護者支援をやっている。
- 杉田委員
そういう情報がすべての地域部会に流れていない。札幌市介護支援専門員連絡協議会に、障がい分野との連携企画を行うようにという情報についても同じである。
- 事務局（小野寺職員）
牧野委員が欠席だが、ご意見を預かっているため、紹介させて頂く。相談支援に関して、相談したいときに繋がらないなどのことがある場合、内容によっては、精神障がいのある方の不安な気持ちを代わってどこかで話を聞いてもらうことはできないだろうか。また、ヘルパーの質の向上の課題について、人材不足等の対策が必要ではないか。
- 永井会長
部会の財源のことなどで発言があったが、何か工夫があれば。
- 佐藤氏（小谷委員代理）
東区は自立支援ネットワークという団体があるので、そのネットワークの事業所が集まって事業所連携の助成金をもらうなど工夫していた。
- 重泉委員
年度研修を一応有料にしている。無料だとやる気があまり感じられない。お金を払って研修に来るのは大事だと思う。運営会議に提案しようと思っているが、全体的な研修を協議会として作り、障がいの基礎的なことなどから学べるよう、研修チームを作ってはどうか。有料の研修により予算も確保できるのではないか。
- 永井会長
協議会として、研修の体系化を考える必要はあると思う。

○ 事務局（小野寺職員）

潤沢ではないが、本庁管理で持っている協議会の予算がある。例えば、どうしても来年だけは部会で大きくお金がかかるといったときは、いったんご相談いただきたい。区に配分している予算は、職員の超勤分を含めて、13万数千円ある。

○ 北川委員

豊平区のフォーラムでタレントさんをお呼んだ費用はどうなっているか。

○ 中村委員

精神保健福祉連絡協議会の自殺予防啓発に関する予算を活用し、お願いした。

○ 永井会長

予算は研修に関わる費用だけか。広報誌の印刷は。

○ 事務局（小野寺職員）

謝金や会場費、印刷費などに当てられる。広報誌の印刷も可能。

○ 黒田委員

景品を提供してくれるパチンコ屋さんを活用するとよい。

○ 山本委員

この10年間の自立支援協議会は走り去った10年。短期目標だけでなく、中長期的に考える時期である。重泉さんの提言について、良いと思う。杉田さんの意見に基づいて、研修を長期的に検討していければ良いと思う。今回の提言はどこで検討されるのか。

○ 事務局（小野寺職員）

協議会全体に関わるご提案なので、運営会議で検討することになると思われる。間に合えば次回の全体会で検討することになる。

○ 山本委員

発達障がいの分野もこのような協議会があり、3つの部会がある。『さぽーとファイルさっぽろ』の啓発についても検討していて、実際にファイルが使われている事例を見聞きしたら教えてほしい。ここ一週間くらいで報告いただけるとありがたい。

○ 事務局（小野寺職員）

部会の参加者が集まらないという課題が聞かれるが、区や事業種別ごとに市から一斉にメールで案内を発信できると以前伝えたことがある。また、協議会ホームペ

ージが札幌市ホームページにあり、部会のコーナーもあるので、ご活用頂きたい。

3. 運営会議に参加する地域部会の代表者について

○ 事務局（小野寺職員）

運営会議は会長、副会長、専門部会長、10区のうち4つの地域部会長から構成されており、地域部会の代表は、平成24年からずっと、中央、北、白石、南の4区から参加している。この4区が情報共有の点からも、入れ替わりながら参加するのはどうだろうかというご意見もあった。この代表を決めることについて、地域部会長が集まる場である「地域部会連絡会」の中で決めてもよろしいかお諮りしたい。

○ 永井会長

地域部会連絡会で決定することに、一任いただいたということによろしいか。

<承認>